

【 第7回 男子ユースアジア選手権 】

2016年8月27日～9月5日 バーレーン・マナーマ

試合結果報告 9 月 1 日 (木)

| J P N | V S | B R N(バーレーン) |
|-------|------|--------------|
| 10 | 前半 | 10 |
| 13 | 後半 | 13 |
| 0 | 第1延長 | 0 |
| 0 | 第2延長 | 0 |
| 23 | 合計 | 23 |

個人得点

| 名前 | 前半 | 後半 | 第1延長 | 第2延長 | 合計 |
|-----------|----|----|------|------|----|
| 高光 凌 | 0 | 0 | | | 0 |
| 高野 颯太 | 1 | 1 | | | 2 |
| 浅川 律樹 | 0 | 0 | | | 0 |
| 阿部 奎太 | 1 | 0 | | | 1 |
| 部井久 アダム勇樹 | 0 | 4 | | | 4 |
| 服部 将成 | 0 | 0 | | | 0 |
| 徳田 廉之助 | 5 | 5 | | | 10 |
| 藤川 翔大 | 0 | 0 | | | 0 |
| 村木 幸輝 | 1 | 1 | | | 2 |
| 藤田 龍雅 | 1 | 1 | | | 2 |
| 堀田 陽大 | 0 | 0 | | | 0 |
| 矢野 世人 | 1 | 1 | | | 2 |
| 助安 大成 | 0 | 0 | | | 0 |
| 若狭 圭悟 | 0 | 0 | | | 0 |
| 狩野 優太 | 0 | 0 | | | 0 |
| | | | | | 0 |
| | | | | | 0 |
| | | | | | 0 |
| 合計 | 10 | 13 | 0 | 0 | 23 |

戦評

男子ユースアジア選手権の4戦目はバーレーンと対戦。この試合に勝てばグループ首位通過が決まる重要な試合。地元バーレーンの強い個人技を活かしたOFに対し、これまで続けてきたハードなコンタクトDFを徹底することを確認して試合に臨んだ。アウェイながらも、現地在住日本人の方々の声を張り上げた応援に応え、立ち上がりから日本のDFが機能し、互角の攻防が続く。序盤は日本にテクニカルミスやシュートミスが出てしまい流れが悪くなるが、GK堀田がサイドシュート・ロングシュート・7mTと立て続けにセーブし対抗する。そんな中、バーレーンが3連取し前半14分で3-5とリードを許す展開。それでも日本は、前半24分からRB徳田・PV高野・LW矢野の3連取で10-8と逆転に成功する。その後、バーレーン 9の強引なロングシュートで失点し、10-10の同点で前半終了。後半も互角の展開となるが、日本はこの日絶好調のRB徳田・LB部井久・LW矢野らで4連取し、後半10分には16-12と引き離しにかかる。その後、一進一退の攻防が続いたが、後半15分RB徳田の7mTが決まり、この日最大の5点差をつける。ここから地元大観衆の声援を受けたバーレーンが、DF隊形を変化させ反撃に出る。後半17分から3連取、後半19分からさらに4連取し、21-22とバーレーンが逆転に成功する。この間、審判の不可解なジャッジに苦しんだ日本は、要所でのシュートミスやテクニカルミスでなかなか思うように点数が伸びない。それでもGK堀田の気迫のセーブから、RB徳田のカットインなどで対抗し、最終的には23-23の同点で試合終了となった。この結果、日本はAグループで2位となり、次戦はBグループ1位の韓国と対戦する。OF・DFともに狙い通りのプレーが随所に見られチームとして成熟してきているが、中東特有の体を預けてくるプレーや、審判のジャッジの見極め・対応など、アジアで勝つためにはまだまだ多くのことを習得しなければならないと感じた試合であった。

報告記入者 :

古家 雅之